「大規模向けポータルシステムの OS バージョンアップに伴う作業及び運用保守の委託」

総合評価基準

日本郵政インフォメーションテクノロジー株式会社

クラウドサービス本部　クラウド開発部

本総合評価基準は、「大規模向けポータルシステムのOSバージョンアップに伴う作業及び運用保守の委託」の仕様に基づいて定められた総合評価基準であり、評価の手続は次のとおりである。

なお、落札者が入札書と共に提出した提案書の内容は仕様書と同様に全て納入検査等の対象とする。

１　総則

(1)　本件の入札説明書に定められた競争参加資格等の条件を全て満たす者から提出された提案書に対して評価を行う。

(2)　提案書は、提案書作成要領に定められた様式及び記述項目を満たした上で、仕様書に定める要求要件をすべて満たしていなければならない。

なお、一つでも仕様書に定める要求要件を満たしていない場合は、その後の評価は行わず、当該提案書を不合格とする。

２ 評価方法

(1) 本調達では、総合評価（加算方式）を用い、提案内容を評価した評価点及び入札価格を点数化した価格点の合計で得た数値のもっとも高いものを落札者とする。

(2) 評価点

ア　評価は、別添「総合評価基準表」に基づいて評価する。

イ　必須要件を全て満たしている者は合格とし、必須要件のうち、ひとつでも満たさない項目がある者は不合格とする。

ウ　合格した者については、各評価要件に対して評価し、評価観点に応じて最高330点までの加点を与える。

エ　評価要件に対する、評価観点の重要度及び相対的評価結果に応じて与える加点の配点の配点基準は次のとおりである。

相対評価

相対評価結果	評価観点の重要度		
	最重要項目	重要項目	一般項目
	A	B	C
優れている	60	30	15
やや優れている	48	24	12
標準	36	18	9
やや劣っている	24	12	6
劣っている	12	6	3

(3) 総合評価の得点

ア　入札価格に対する得点配分の割合は、全体の四分の一とする。

イ　入札価格の評価方法については、次のとおりとする。

入札価格の得点は、入札価格を予定価格で除して得た値を一から減じて得た値に入札価格に対する得点配分を乗じて得た値とする。

ウ　性能等の評価方法については、次のとおりとする。

(ｱ) 評価の対象とする技術的要件については、当該調達の目的・内容に応じ、事務・事業上の必要性等の観点から評価項目を設定し、これを必須とする項目とそれ以外の項目とに区分する。

(ｲ) 必須とする項目については、各項目に最低限の要求要件を示し、この要求要件を満たしていないものは不合格とし、要求要件以上の部分については評価に応じ得点を与える。

(ｳ) 必須とする項目以外の項目については、各項目毎に評価に応じ得点を与える。

(ｴ) 各評価項目に対する得点配分は、その必要度・重要度に応じて定める。

エ　価格及び性能等に係る総合評価は、入札者の入札価格の得点に当該入札者の申込みに係る性能等の各評価項目の得点の合計を加えて得た数値をもって行う。

別添

総合評価基準表

1　必須要件

評価項目	評価観点	評　価
仕様書 準拠要件	調達仕様書のすべての要件を理解し、もれなく準拠するように対応すること。また、それが確認できる資料の提示があること。	合格 又は 不合格

2 必須以外の要件

項番	評価項目	評価観点	重要度	配点
相対評価				
1	プロジェクト管理(手法)	当プロジェクトや対象システムの特徴（対象アプリケーション、システム利用、委託内容等）を踏まえ、プロジェクトを成功させるために重要と思うプロジェクト管理や運営上の要点に対する管理、施策等について、以下の観点で評価する。 ・具体的な内容であること ・これまでの経験に基づいた実践的な内容であること	A	60
2	プロジェクト管理(体制)	組織における資格取得に向けての取り組み、及び当該プロジェクトの要員において、以下のような公的資格等を取得していることを評価する。 ・情報処理技術者試験(ST、PM 等レベル 4 試験) ・PMP（Project Management Professional） ・その他（intra-mart 認定資格、等）	B	30

3	品質管理	品質管理について、定量的かつ定性的な観点で具体的に明示されていることを評価する。 ・過去の類似プロジェクトの実績での知見に基づく品質管理方法とその方法を採用する理由	C	15
4	intra-mart Accel Collaboration の新規構築における開発方法論	intra-mart Accel Collaboration を使用した構築におけるバージョンアップに係る方法論について以下の内容で評価する ・intra-mart Accel Collaboration を利用するシステムのバージョンアップにおけるドキュメントの作成、及び新環境を構築するうえでの留意点など	B	30
5	intra-mart Accel Collaboration 移行の実績	intra-mart Accel Collaboration の移行実績について、以下の内容を評価する。 ・移行実績の内容（バージョン、利用者数、スケジュール等）	B	30
6	OS バージョンアップテスト（機能確認等テストのスコープと効率化）	テスト全般について、以下の観点で評価する。 ・テストの網羅性を確保しつつ過不足なくかつ効率的なテスト方針ならびにテスト計画の考え方 ・本システムの特性を踏まえ、テストの効率化による期間短縮施策の提案	A	60

別添

7	性能テスト	性能評価および性能向上に向けた提案について、以下の観点で評価する。 ・効率性を考慮した性能テストの評価内容と評価方法 ・intra-mart 環境における性能向上につながる施策の実績（具体例、バージョン、利用者数等）	B	30
8	intra-mart 製品のシステム移行	当プロジェクトの移行及びサービスインに関する内容について、実施する施策が具体的、詳細で実現性のある内容であるか評価する。 記載内容例 ・データ移行 ・システム移行 ・体制 ・コンティンジェンシープラン　など	C	15
9	運用保守作業管理	類似プロジェクトの知見を活かした具体的な運用保守作業の内容について示されていること 記載内容例 ・重要かつ複雑な障害発生時などにおける対応・エスカレーション体制 ・速やかに解決するための取組 ・環境やドキュメント等の整合性が保たれるための取組 ・運用保守作業の効率化の取組	A	60
総合評価配点合計			330点	